

リオデジャネイロオリンピック レポート

編集グループ

井越元生

私は8月1日から8月24日までの期間、ブラジルで行われたリオデジャネイロオリンピックにバレーボールの国際信号制作のスローチームとして携わることができました。

今年2月のファイターズアリゾナキャンプ現地編集業務で初の海外を経験し、早くも今回のオリンピックで人生2度目の海外を経験しました。

アリゾナも遠かったですが、ブラジルはそれよりも遠かった。日本の真裏ということで覚悟はしていましたが、丸一日以上の飛行機移動で最初から疲労感にやられました。

スローチームは全部で10人いて、1チーム5人の2チームに分かれました。予選ラウンドは1日6試合あったので前半後半に分け1チーム3試合ずつこなしていきました。準々決勝になると1日4試合、準決勝以降は1日2試合となりましたが、だんだんメダルが近づいてくるにしたがって緊張感も増していきました。



私は今回ハイスピードカメラのスローを担当することが多く、今までやったことのないポジションで貴重な経験を積むことができました。普通のノーマルスローとは違い1秒間300コマなどの高画質なスローを見せることができますが、その分尺が長くなってしまいます。そうすると、どこからどこまで出すのかの切り取りがとても重要でした。ハイスピードのスローがあるとスローのインパクトが強くなる。しかし、in点を間違えるとのっぺりとしたメリハリのないスローになってしまう。常に、カッコいいところ・印象的なところをうまく切り取れるよう心がけていました。

不安の多いブラジルでしたが、危険な目にあうこともなく、忙しい仕事の合間にも本場のシュラスコを食べるなどブラジルらしいこともできて帰ってくることができました。

今思うと、自分が将来オリンピックの仕事をする事ができるとは、この会社に入社するときには想像もしていなかったです。自分の出したスローが全世界に配信されている、メダルが決まった瞬間などはこれからもその映像がニュースやスポーツ番組で使われ続けることになる。オリンピックに限ったことではないですが、そのようなことを考えると自分の仕事に誇りを持てると同時に改めて責任を感じます。この貴重な経験を自分の財産として、これからの仕事に生かしていきたいと思います。